

2018年(H30年)

9月

No. 321

(ホム) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

ひとほ

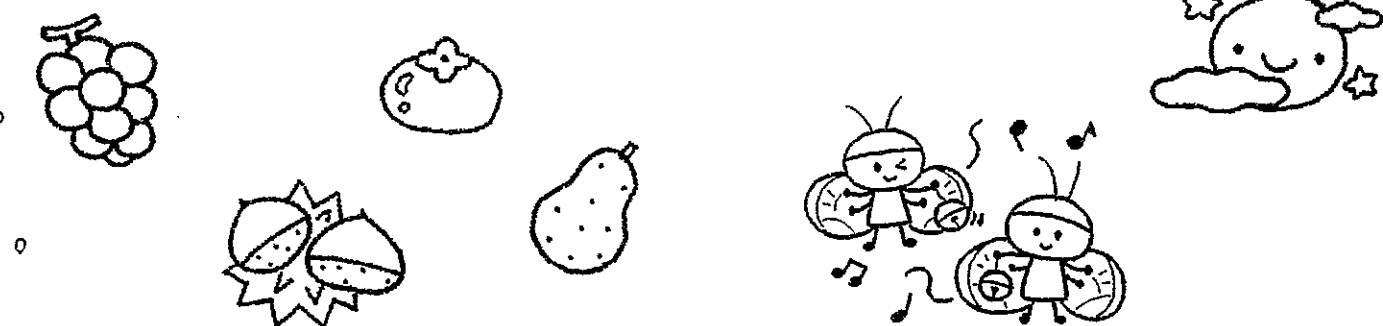


社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

「盆踊りにて」

- あの猛暑と豪雨に見舞われた雨も、ようやく盛りを過ぎていきました。
- ひとほの在所する長田下地域自治振興会では、地域内にある明神クラブが主催して、恒例の盆踊りが宮まれました。ひとほからもホームで生活している人たちがグループホームで生活している人たちが、大勢で参加しました。みんなそれぞれに参加方法を心得ていますし、地域の人たちもごく普通に接してくれますので、盆踊りのにぎやかさを演出するには格好の人材です。その上、明神の人たちが前々日にはホームの前庭で練習日を設けてくださっていますから、数名は盆踊りの輪に加わり楽しんでいました。久しぶりに会った顔見知りの人とも、相手が腹を抱えて笑うほど、和やかに接していました。
- このような様子を見ながら、「ああ、ひとほはこの地区にちゃんと居場所があるんだなあ」とつくづく思いました。
- みんなそれぞれに自分らしく生きています。変に取り繕うでもなく、遠慮するでもなく、かと言って目に余るようなことをするでもなく、ただいつものように自分らしい行動をしています。
- ひとほも、お盆をホームやグループホームで過ごす人が多くなりました。しかし、それでもここは自分の住んでいる地域です。これから地域住民としての役割を担いたいと思います。

（理事長 寺尾文尚）



「豪雨を経験して」

7月の豪雨災害で、グループホーム（西本邸・的場邸）の住居人も一晩共同ホームで過ごしました。その晩は、地域の方も多も避難されました。幸いケガもなく、家屋などの損壊もなかったのですが、列車も止まり、商店から品物が少なくなるなど、日常生活に影響が生まれました。

戸惑いと不便さを感じる日々に、「列車の運休でバスでの通勤に切り替えたが、時間もお金もかかってしまう。」「休日のおでかけが、列車の運休の為大幅にルートや予定が変わった。」「重労働先の工場の豪雨で止まっていた分の注文がまとめてきており、仕事が忙しい。」「豪雨の後に猛暑と続き、段々と疲れがたまってくる」と口々に聞かれます。みんな休まず仕事をがんばっています。

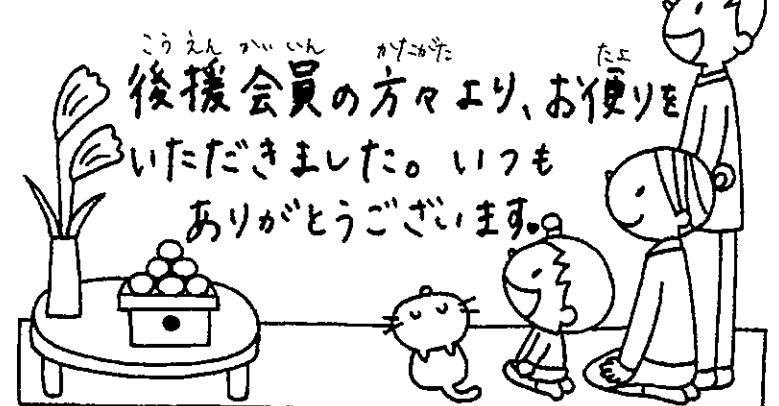
（グループホーム ひとほ長屋 柴坂尚樹）

「医務室 看護師より」

- 第1水曜：ひとほ 窯
 - 2：ひとほ 農園
 - 3：さつき亭にて健康サロン
 - 毎週金曜：就労センターあぶら
- 以上の予定で毎月訪問し、血圧・体重測定を行い、きららの仲間と話をしながら活動しています。

その他の日曜日はひとほ福祉会本部に待機しています。気軽に雑談に来てみませんか？お待ちしております。（看護師 中村利江）

- 各地の作業所が閉じられました。
- 弱い所から先に被害がある現実、木ん達のできることは何か？といつも考えさせられます。（安芸高田市向原町）
- ひとほつうしんの寺尾文尚さんの文を読んでいる間は深く考え込まずのでも、すぐ忘れるので、切り抜きして冷蔵庫に貼っています。（広島市中区）



後援会員の方々より、お便りをいただきました。いつもありがとうございます。

「心優しい悪態の大将」

農園に、自称「パチンコのチャンピオン、左官のプロ」がいます。白菊さんはいつも元気で、スタッフを見かけると何かを自慢してきます。反応が悪い男性には「ゴリラ！鼻黒！」等と悪態をつきます。しかし、言い過ぎたと思った時には、小さい声で「あ！間違えた！」と反省する様子。と思いきや、次に来た男性に同じように悪態。そんな白菊さんですが、今年になって感激した事があります。一つは砂利の入った重いカゴの移動を手伝ってくれるようになった事。二つ目はタバコをくれた事。言葉と違って心優しい面も持ち合わせているのです。

(ひとは工房 高沖 勇雄)

「おやつ事情」

くらむぼんでは、ほぼ毎日手作りのおやつを用意しています。蒸しパン、ホットケーキ、ゼリー、他におにぎり、うどん…。「えっ！おやつにおにぎり？」と、4月にひとはぼんからくらむぼんに異動してきた私は驚きました。2~3口で食べられる量はくらむぼんでは「おやつ」であり、子ども達にとってはいつものことなのです。「おかわりはたいの？」「おいしいか、たよ」と笑顔で食べている子ども達を見るととても嬉しく思います。苦手な物がある子には「一口は食べてみて」と声をかけています。

さて、明日のおやつは何にしようかな？ (くらむぼん 橋川 成子)

「ごませんべいから新商品へ」

「ごませんべい作り、これが最後よ」と伝えると、「最後なんかも」「手でこねとって」「手で伸ばしとって。手が痛かった。」「サッポロバラバラじゃ、た。大変じゃったが、楽しかったの。」
 「そうよ、楽しかったよ。」「生地こねがたふね」と寂しそう。現在、新しい商品を開発するために、色々試作中。「みんなで作るんよ。おいしいって言われるもの作りか」と声をかける。一人一人の力を発揮し、さららの仲間の力だけで作り上げられていた。ごませんべいに見かけないくらいの人気商品を開発したい。

(紙袋センターあぶ 長岡 逸子)

「お・み・と・お・し」

例年にも増して暑かった夏。農業班を訪ね「丸岡さんお、てですか？」と私。すると重広さんが、離れた場所にあるビニールハウスを指差し「あ、ちよと。その瞬間 私はこの猛暑ゆえ、「また後でいいや…」と思いました。が、間髪入れず「応援しちゃうけん行ってきんさい。」「応援しちゃうけん頑張り！」と重広さん。その言葉に急にやる気スイッチが入り、私は、難なくビニールハウスまで歩きました。後でお礼と共に「何であんなに応援してくれたんですか？」と尋ねると「あなた絶対行かんと思った。」と私の心をお見通し。相手を想うその言葉掛けが私は身にしみ、その姿勢を見習いたいと思いました。

(事務局 築城 暁子)

「大丈夫？」

私が焦っている時、座っている時…いつ、どんな時でも「大丈夫？」と声をかけてくれるのは小川緑さんです。「大丈夫ですよ」と返事をすると、笑顔で話をされます。なぜこのように聞かれるのか尋ねると、「疲れた顔してると、という解答がそんなに顔に出ていることに驚くと同時に、緑さんの優しさを感じました。2人の合言葉のように「大丈夫？」を聞くと安心している私がいいます。

(共同ホームひとは 笹川 琴未)

編集後記

私の生まれ育った安芸郡は、先の豪雨災害で被害の大きかった地域の一つで、多くの友人知人が被災しました。私の所属している広島響ウィンドオーケストラのメンバーも、様々な形で被災しています。災害から一週間後の連休、安芸郡坂町にある、床上浸水したメンバーの自宅へ片付けの手伝いに行きました。氾濫した川沿いにあるお宅は、床の高さまで土砂が流れ込み、ブロック塀は倒れ、家の外には、そこにあるはずのない大木が横たわっていました。川の中には、おおよそ車と判断できないような、エンジンルームとタイヤだけになった車のものが、何台も土砂の中に埋もれていました。穏やかだった住宅地が、たった一晩でこんなにも変わってしまうのかと、ただただ呆然と立ち尽くしてしまいました。

泥まみれになった坂間の掃除をしながら窓を見ると、スケジュールの書き込まれているカレンダーや家族写真が貼ってあり、そこに日常があったのだと気がかされます。(白井 くみこ)